

事業報告書（令和7年度）

事業名 親と子の学べるアソビバ～未来をみつめて～

団体名 aSoViva～アソビバ～

担当者名 小倉 麻衣子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

A. 子ども縁日出店

2025年7月27日(日) 10:00～15:00

水島愛あいサロン 小学生7名、未就学児3名

子どものお仕事体験として、マルシェに出店した。縁日ブースを子どもたち主体で作り、実際に接客体験をした。また、他の出店者さんとの交流を通して、様々な職業があることを知ったり、興味を持つことができた。



B. 子どものつどい場+料理教室

2025年7月29日(火)9:30～15:00

倉敷健康福祉プラザ調理室 小学生22人 未就学児3名 (+大人5人)

講師：アソビバスタッフ、外部講師（絵の先生）

夏休みなので朝から子どもたちが集まり、宿題をしたり、『米粉ピザ作り』をした。今までの料理教室とは違い、ポイントだけお伝えして、あとは子どもたちが主体となり、チームで話し合いながら食材バランスや使う調理器具を考える料理教室を開催した。





C. 子ども料理教室

2025年1月30日(金)17:30~20:00

倉敷健康福祉プラザ調理室 小学生26人 中学生1人 未就学児1名 (+大人5名)

講師：アソビバスタッフ、外部講師(管理栄養士)

節分前に『まごわやさしいこ』をテーマにしたカラダにやさしい巻きずしづくりを体験した。また、健やかな体づくりに必要な栄養についての講座もあわせて行った。

小学6年生から未就学児までをまぜたいろんな学年の混合グループで、高学年はリーダーシップを発揮し、チームをまとめるなど、多くの学びや体験ができた。



2. ESDの視点
①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
料理教室は、主体的に取り組むこと、楽しく食べることを最優先の目的として行った。他学年との関りでリーダーシップをとれた、自分で考えて完成させることができた、と自信をつけ、その後家庭でも学んだことを実践しているとの報告があった。また、身近に取り入れることができる栄養について学んだことで、家庭での食事時間に食材について話す機会が増えたとの声もいただいた。フリマ出店や縁日出店では、自分たちで作り上げたお店で堂々と接客する姿や、子どもたちで協力して試行錯誤する姿も見られた。働くことの楽しさと大変さ、お金の持つ力について実践を通して学んだ。
②どのように学び合いを取り入れたか
開催後はその場での感想シェアに加えて、後日提出のアンケートやレポートを行った。自宅で引き続き取り組んでいることや学んだことを子ども本人や保護者の方から教えてもらい、メッセージを返すなど活動後もコミュニケーションを絶やさないようにした。その結果、また次の会も参加してくれる子が多い。
③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
主体的に行動すること、学校社会だけでは関わるできない、いろいろな世代との関わりを重要視した。縁日出店では、他にもたくさんブースが出店しており、積極的に話を聞きに行くなど働く大人の姿を見ることも学びとした。料理教室では、子どもたちだけでできた！と自信をつけられる内容にこだわり、ポイントだけを伝えてあとはしっかり大人が見守る流れで組み立てた。いろいろな学年の混合チームを作り、どの学年の子も活躍できる内容や役割を用意した。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
参加後のアンケートや感想シェアでは、難しかったところもあるけど、みんなで作ることが楽しいという意見や、次は〇〇がしたい！など、食べること作ることへの興味関心や、自分たちで主体的に考え行動する意欲が増していると感じる。美味しく楽しく食べること、孤食を防ぐことは、健やかにイキイキと生きる上でとても大切なことだと思うので、食への興味が増すことは大きな成果だと感じる。また、今度は学校でも〇〇してみたい！などの声もあり、学校ではやっていない体験をすることでまた学校生活へフィードバックできることもあると感じている。また、縁日での出店では、子ども目線で子どもが喜ぶことを自分たちで考え、試行錯誤取り組むことや、行き詰ったときはまわりの人に意見を求めるなど、コミュニケーションを通して相手に自分の想いを伝える力、助け合う力などを短期間の間に身につけることができた。そして、他学校の生徒、いろいろな世代や職業の大人、小さな子どもとのかかわりの中で、他者を理解しようとする姿も見られた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

子ども自らが、「食」を通して健やかな身体づくりに興味を持つことは、すべての人が健やかに生きていくきっかけとなり、健康寿命の延伸に繋がると考える。

また、室内遊びが主流になってきている近年において、しっかりカラダを動かすことも健康に過ごすために大切なことである。

これからも「食」「運動」を通して子どもたちの健やかな未来を応援していきたい。

また、縁日（マルシェへの出店）を通して、「働く」ことを体験し、いろんな職業の方と関わる機会を持つことができたのは、子どもたちが未来を描くきっかけになったと考える。

「体験」は子どもたちが自信をもって積極的に物事に取り組む際の大きな武器になる。

今年度は家庭事情により、事業計画通りの回数、活動を実施することができなかったことは反省であるが、引き続き aSoViva では、『食』『運動』『学業以外の学び』の3本柱で活動を継続し、子どもたち、また大人も体験を通して学ぶ場をこれからも提供しながら、地域の人との繋がりや、多世代の交流を行っていきたい。